

# 厚生労働大臣賞

イーバス ティービーエヌエイ

## EBUS-TBNAシステムの開発

### <受賞者>

オリンパス株式会社

安福 和弘（トロント大学附属トロント総合病院 呼吸器外科教授）

### <功績>

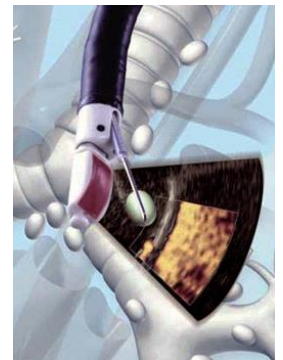
オリンパス株式会社及び安福氏は、超音波内視鏡に吸引生検針を組み合わせるにより、リンパ節を含む気管・気管支周辺を低侵襲で病理診断できる機器を実用化した。これにより、無駄な検査や手術を削減し、それに伴う合併症を減少させ、検査コストの削減への貢献が期待できる。

### <概要>

肺癌において、癌細胞が気管・気管支周囲リンパ節の何処まで転移しているかは、予後に大きく影響する因子であり、治療方針を決定する上で極めて重要な情報である。CT、PET等の画像診断によりリンパ節転移が疑われる症例に対しては、病的な確認が推奨されるが、従来型の縦隔鏡検査は全身麻酔を必要とし、稀ではあるが、重篤な合併症も報告されている。

オリンパス株式会社及び安福氏は、気管・気管支経由で超音波画像ガイド下にリンパ節の細胞・組織を吸引採取する「EBUS-TBNAシステム」（超音波気管支鏡ガイド下針生検）を実用化した。これにより、低侵襲で安全かつ高い診断能をもつリンパ節転移診断法を実現することができ、患者のQOL向上に貢献しただけでなく、検査コストを削減できる。

	縦隔鏡検査	経気管支針吸引生検 (TBNA)	超音波気管支鏡ガイド下針生検 (EBUS-TBNA)
概要	全身麻酔下、胸骨上縁を小さく切開し、内視鏡を挿入して、検査	局所麻酔下、気管支内視鏡により気管・気管支経由で生検 ※気管壁外部位は直接観察する事ができず、診断精度に限界	局所麻酔下、超音波内視鏡により気管・気管支経由で超音波画像ガイド下に生検
侵襲	大	小	小
合併症	希ではあるが、重篤な合併症の報告あり		
費用試算*	271,220円 (検査時間を90分、入院期間を4日間と仮定)	(未試算)	64,700円



EBUS-TBNAのイメージ：超音波内視鏡により気管・気管支周囲の超音波画像を描出し、リアルタイムに位置確認しながら、吸引生検針によりリンパ節等の吸引生検を行う。

\*気管支学29巻(2007;29:337-341)